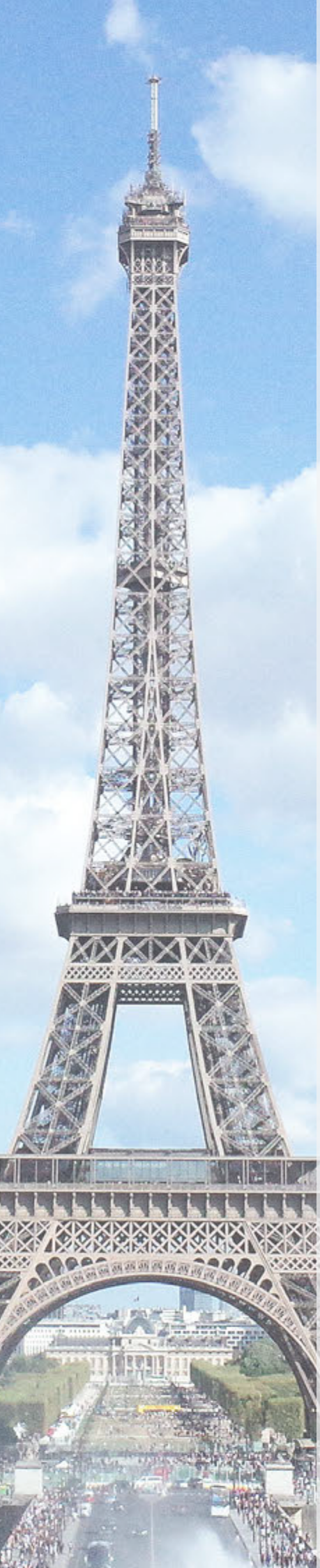

パリ協定のゴールに向けた検証

—2030 年民生用 CO_2 40% 削減にどう対応するか—

温暖化が原因と推察される気候災害が急激に増加する中で、「気候非常事態宣言」の運動が活発化してきており、早急に脱炭素化へと舵を切る必要がある。わが国では、2030 年民生用 CO_2 40% 削減の方針を打ち出しているが、少なくともこの目標に向けて建築関係者や生活者は着実に CO_2 削減策を実行していかなければならない。本シンポジウムでは、改めて低炭素社会推進会議として、削減策の内容を確認し、その可能性や問題点について討議し、今後の取り組みについて議論する。

主　催　低炭素社会推進会議
日　時　2020 年 1 月 29 日（水）午後 1:00-5:00
会　場　建築会館ホール（東京都港区芝 5-26-20）
定　員　200 名 (申込み先着順)
参加費　会議構成団体会員 2,000 円、会員外 3,000 円、
学生 1,000 円 (資料代含む / 当日会場払い)
司　会　糸長 浩司（日本建築学会）　宮崎 慎也（日本建築学会）
記　録　岩本 静男（空気調和・衛生工学会）

プログラム

開催挨拶　中村 勉（低炭素社会推進会議議長）

１部「参加団体からの取り組みに関する報告」

活動報告　低炭素社会推進会議参加団体
提言 (案) 報告　吉野 博（日本建築学会）

２部「住宅・建築における脱炭素化に向けて」

基調講演　「CO_2 削減に関する民生部門に対する我が国の方針」
国土交通省住宅局

話題提供
（１）民生用エネルギー消費削減の可能性と課題
下田 吉之，大阪大学（空気調和・衛生工学会）
（２）生活行動と住宅エネルギー消費
中上 英俊，住環境計画研究所（日本建築学会）
（３）小規模建築の省エネルギー方策と建築士の新たな役割
篠 節子（日本建築士会連合会）

３部「地域における脱炭素化に向けて」

基調講演　「パリ協定の今　世界の潮流と日本の動向」
高村 ゆかり（東京大学未来ビジョン研究センター教授）

話題提供
（１）脱炭素型団地再生
平井 勝（都市再生機構技術コスト管理部）
（２）ストック改修による市街地の再生
中村 美和子（日本建築学会）
（３）農村集落の低炭素化
小林 久（農村計画学会）

４部 討論：「低炭素社会推進会議への期待」

モデレーター　横尾 昇剛（日本建築学会）
パネリスト　中島 恵理（環境省 環境計画課），下田 吉之（前掲），中上 英俊（前掲），篠 節子（前掲），平井 勝（前掲），中村 美和子（前掲），小林 久（前掲）
まとめ　中村　勉（前掲）

申し込み

申し込み方法：　申し込みは**こちら**からお願いいたします。
事務局：（公社）日本建築士会連合会　東京都港区芝 5-26-20　建築会館 5 階　Tel：03-3456-2061

構成団体：（公社）空気調和・衛生工学会，（一社）建築設備技術者協会，（一財）建築環境・省エネルギー機構，（一社）建築設備綜合協会，（一社）住宅生産団体連合会，（一社）電気設備学会，（一社）都市環境エネルギー協会，（一社）日本サステナブル建築協会，（一社）日本建設業連合会，（公社）日本建築家協会，（一社）日本建築学会，（一社）日本建築構造技術者協会，（公社）日本建築士会連合会，（一社）日本建築士事務所協会連合会，（一社）日本太陽エネルギー学会，（公社）日本都市計画学会，（一社）日本木材学会，日本ヒートアイランド学会，農村計画学会，（一社）日本ビルヂング協会連合会，（一社）照明学会

協賛団体：（株）総合資格